

氏名	高田 浩司
授与した学位	博士
専攻分野の名称	文学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年 3月25日
学位授与の要件	文化科学研究科人間社会文化学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	弥生・古墳時代の手工業生産と集団関係
学位論文審査委員	主査・教授 稲田 孝司 教授 新納 泉 助教授 松木 武彦 助教授 今津 勝紀

学位論文内容の要旨

本論文は、弥生時代・古墳時代における石器・青銅器・鉄器の分析から当時の手工業生産と流通システムおよびそれらにかかわる集団関係の歴史展開を追究したもので、A4判ワープロ打ち本文182頁と岡山県出土弥生時代・古墳時代前期鉄器集成表および文献リスト44頁からなる。内容は既発表論文4編を中心とし、その文章を補訂するとともに新たな節を書き加えて全体を体系的な叙述に整えたものである。なお既発表4論文は、本論文の第1章第1節・第2節、第2章第2節、第3章第2節に対応する。

第1章 吉備の石器の生産と流通

本章では石器の生産と流通に関する問題をとりあげ、第1節において弥生時代における吉備南部・吉備北部・畿内地域の石器生産と流通のあり方を比較した。畿内では拠点となる集落が石器を製作しその製品を他の集落へ流通させるという重層化した流通網があったのに対し、吉備南部では集落ごとにサヌカイト原石の入手や製作を行うなど、各集落の自立性が相対的に高かったことを推測した。第2節では吉備南部と畿内出土の打製石剣をとりあげ、後者では石剣が他の石器と同様に拠点集落で当初から剣として製作されたのに対し、前者では打製石包丁を転用・再加工して石剣をつくる特色があり、第1節で述べた石器製作における集落ごとの個別性を傍証するものと理解した。

第2章 金属器からみた弥生から古墳時代への動態

本章では、弥生時代中期から古墳時代への移行過程で鉄器・青銅器の生産と流通がどのように展開したかを論じた。第1節では鉄器を対象とし、吉備地域の弥生時代中期から古墳時代前期までを6段階に区分してその消長を追った結果、第3－第4段階（弥生時代後期）に鉄器量の増加、墓への本格的副葬、農耕具が安定して鉄器に加わるなど、一定の変化があることを指摘した。こうした現象にもとづき、吉備の鉄器は第2段階までは他地域からの間接的流入であり、第3－第4段階以降、朝鮮半島からの直接入手があった可能性を推測し、その背後に吉備地域諸集団の結束強化、鉄入手の拠点づくり、鉄器を中心とした生産・流通システムの形成を想定した。同時に吉備地域では、石器の生産システムも一定期間維持され、徐々に鉄器化が進行するところに特色をもつとした。畿内勢力による一元的な鉄器流通ルート掌握説については、儀器や威信財としての鉄器についてのみ可能性があり、実用の鉄については上記の吉備における実状および弥生時代の鉄素材・鉄器導入には瀬戸内ルートの他に山陰・太平洋のルートが推定されるところから不可能と判断した。

第2節では銅鏃をとりあげた。弥生時代の銅鏃については従来から地域性の有無をめぐる議論があったが、ここでは実用的な規格製品である第1類と儀器的な第2類とに区分することにより、これまでの議論が両類の片方のみをみた議論であったことを指摘した。とりわけ第1類銅鏃は、石鏃の形態を踏襲して顕著な地域性をもった鉄鏃とは異なり、実用レベルで形態の斉一化を実現し、集団をこえたアイデンティティーの形成に貢献した点にも意義を見いだした。

第3章 古墳時代の地域社会と集団関係

第1節では、前章第2節をうけ、古墳時代銅鏃の特質を論じた。この時代の銅鏃についてもその生産と流通については畿内一元説と多元説とがあったが、ここでは古墳時代の主要な型式である筥袂付腸袂柳葉式銅鏃・柳葉式銅鏃・無茎銅鏃・腸袂柳葉式銅鏃の起源を個別に追究し、多くの形態的要素が弥生時代各地の銅鏃・鉄鏃に由来することを明らかにした。そのうえで古墳時代の生産・流通システムには、畿内から地方首長への贈与が中心であったとしつつも、部分的には地方首長レベルでのモデルが幾通りか成り立つ可能性を指摘した。しかしながら古墳時代銅鏃の最大の特徴が規格性の高さにあることには変わりなく、畿内という中心が形成されたことにより、贈与された銅鏃が「規範的なモデル」となって地方生産の銅鏃にも影響を与え、形態の斉一性が生みだされたと理解した。

なお、こうした規範モデルにもとづく形態の斉一性は古墳に副葬された儀器としての銅鏃に限られ、古墳時代集落遺跡から出土する銅鏃は基本的に弥生時代第1類銅鏃の形態を踏襲しており、ほぼ確実に地方生産であったと考えた。

そこで第2節では、吉備南部における古墳時代の集落と古墳との関係を論じた。吉備南部では弥生・古墳時代移行期の集落に基本的な変化は見られないが、ただ津寺遺跡については、①周辺集落の吸収と他地域の人間の移住、②海上交通の拠点、③政治ないし祭祀のセンター機能といった性格を新たにもつことに着目した。しかしながら津寺遺跡を含め、古墳時代Ⅲ期（中期初頭）には多くの集落が廃絶・衰退し、それにかわって造山にいたる巨大古墳が築造されはじめるという大きな転換点をむかえる。古墳の築造は、人間の集住、首長間や工人の交流、政治的・祭祀的性格といった点でそれまで津寺遺跡がもっていたのと同じ「交流の結節点」としての性格をもつが、津寺のような集落がそのまま都市へ発展するのではなく、結節点が古墳祭祀へシフトし地域間交流のなかで首長の関与がより大きくなる特徴を指摘した。

第4章 弥生・古墳時代の手工業生産と集団関係

本章では以上の手工業生産と流通にかかわる個別研究を総括するとともに、弥生時代から古墳時代への歴史展開のなかでそれらがどのような意義をもったかを考察した。すなわち、弥生時代後期社会には2つの問題があり、1つは鉄の導入により経済関係が地域をこえて拡大し複雑化するなかで経済の不安定化が顕著になるという経済構造内部の問題であった。もう1つは、経済関係が地域をこえて拡大傾向にあったにもかかわらず、銅鐸などにみられるイデオロギー体系は地域アイデンティティーの強化を指向していたという矛盾であった。畿内政権による実用的な鉄器・鉄素材の一元的掌握説が成立しないことは第2章で論じられたところであり、したがって前者の問題は経済構造内部では解決がつかない。結局、第2の矛盾を、経済の広域化にあわせてイデオロギー体系を脱地域化する解決方法、つまり北部九州・吉備・畿内・東海などの勢力が連合しつつ古墳の形態や副葬品を斉一化して「規範的なモデル」を創作することによって解決する方向が採用されたと解し、そこに古墳成立期の手工業生産と畿内政権の特質がみられると結論した。

学位論文審査結果の要旨

学位審査会は、2004年2月4日、学内審査委員4名によって行った。審査結果は以下の通りである。

本論文は、石製・青銅製・鉄製の鏃の分析を基礎とし、弥生時代から古墳時代にかけての石器・青銅器・鉄器の歴史的な変遷と地域的な変化を追跡することにより、当時の手工業における生産・流通体制の特質とそれにかかわった諸集団の経済的・政治的関係のあり方を考察したものである。すなわち吉備地域では弥生時代後期に石器にかわって鉄器が道具の主体を占め、鉄原料入手や鉄器の生産・流通体制の確立をめぐって地域集団の結束強化が推定されること、弥生時代銅鏃は地域ごとの生産で儀器用の鏃が地域性を顕著にあらわすのに対し実用鏃は形態的な規格性をみせること、古墳時代の銅鏃の形態的起源が各地の弥生時代銅鏃にたどられ、古墳時代においても部分的に地域生産が推定されるにもかかわらず形態的な斉一性が顕著に進んだこと等々の事象をふまえ、各地の地域集団は鉄を媒介として生産・流通体制をいっそう広域化させるが、広域化した経済・社会は畿内政権による生産・流通の一元的掌握によって統一されるのではなく、むしろ各地首長の連合による斉一的な古墳祭祀の創出によりイデオロギー的な統一がはかられたとして、当該時代における手工業生産と集団関係の特質を明らかにした。

本論文は、材質の異なる遺物を横断的にとりあげ、遺物の形態と生産・流通システムとの関係を探り、生産・流通と集落とのあいだに関連を求め、経済関係とイデオロギーのあいだの矛盾を視野に入れつつ、弥生・古墳時代の手工業生産と集団関係を多角的に論じた点できわめて野心的であり、かつ議論の展開過程と論証された内容の充実度は高い。同時に、弥生時代における鉄器化の評価、銅鏃の地域色の有無、古墳時代銅鏃の一元説・多元説等の論争においては、一方の説に偏することなく新たな論証をふまえて対立点をより高い次元で展開させようとするなど、研究の進め方に着実さもみとめられる。

以上の積極的な側面が本論文の基本的な評価ではあるが、当該時代の手工業生産を総体的に論じるには石器・青銅器・鉄器のその他器種や木器等も含めさらに広い分野の研究が必要であること、石器・青銅器・鉄器あるいは集落に関する個別研究と第4章の総括とのあいだに部分的な飛躍や説明不足がみられることなど、実証的・理論的に今後さらに研究を深めるべき課題が指摘された。あわせて、若干の誤植等についても指摘があった。

本論文がとりあげたテーマについてはたしかに今後の研究課題は大きいですが、それは学界全体における研究の進展と若い筆者の成長過程のなかで時間をかけて解決していくべき性質のものであり、本論文でみせた研究への意欲と多角的な視点および研究方法の着実さは、著者が今後ともそうした課題に果敢に挑戦しうる能力を十分備えていることを証明するものといえる。

本審査会は、以上により、本論文を博士の学位論文として認定することにつき、全員一致で合意した。